

エスニック・ビジネスの立地要因 ーコミュニティ研究から経済地理学的研究へー

片岡博美
近畿大学経済学部

本稿では、エスニック・ビジネスの立地要因について、日本におけるブラジル系ビジネスの、同一エスニック集団の「異なる地域」における立地展開の差異、同一エスニック集団の同一地域における「異なる時期」における立地展開の差異、展開される業種ごとの差異の3つの側面から検討し分析した。その結果、エスニック・ビジネスの立地要因は、エスニックな要素が大きく関わる「エスニック立地因子」と、外部一般経済と同様の、いわゆる一般因子に近い「非エスニック立地因子」の2種があること、そしてこれら2種の立地因子が組み合わさりエスニック・ビジネスの立地や集積がもたらされることを明らかにした。

また、本稿では、エスニック・ビジネスをとりまく「ホスト社会における機会構造」もあわせて検討し、エスニック集団のホスト社会への同化やエスニック集団の生活空間の縮小といった「負の機会構造」と、エスニック集団の集住や核店舗・核施設の存在といった「正の機会構造」の存在を提示し、これら2つの機会構造のバランスにより、エスニック・ビジネスは盛衰し、また、その立地場所や集積の様態を変化させることを明らかにした。

キーワード：エスニック・ビジネス、立地要因、機会構造、立地展開、ブラジル系ビジネス

I はじめに

移民や外国人労働者が、ホスト社会において日常生活を営む中で、エスニック・コミュニティやエスニック・ビジネスの存在は欠かすことができない。エスニック・ビジネスは、ホスト社会におけるエスニック集団成員にとって、エスニックな財・サービスを提供する機能のみならず、同胞間の情報の結節点、エスニック・ネットワークの構築、同胞援助、受入国との接点といった社会的機能や、母国文化の保持・発信、母国との紐帯、エスニック・アイデンティティの保持・育成といった文化的機能を持つことが、片岡（2005）により指摘されている。

エスニック・ビジネスの本格的な研究は、自営業研究が活発化する中、エスニック集団と自営業との関係に着目した研究が増加したことに始まるとされる。そのため、エスニック・ビジネスの形

成要因について蓄積は多く、「排除仮説」や「文化仮説」、「反応仮説」、「階級仮説」といった理論が、Light やThompson, Waldingerなどにより構築されてきた。その後研究が進む中で、エスニック・ビジネスは、起業家自体の人的資本や当該エスニック集団の移住経路のほかホスト社会における機会構造にも影響を受けつつ成立・発展するため、その内容がそれぞれのエスニック集団により大きく違うこと、また、同じエスニック集団でも、起業家の出身地域によってホスト社会におけるビジネスの展開に差異がみられることが指摘されるようになった。

エスニシティ研究の進展にともない、地理学の分野でも、エスニック・ビジネスに着目した研究が蓄積されつつある。1998年には『Urban Geography』で「エスニック経済の地理学的側面」という特集が生まれ、「エスニック経済の文脈の中で、場所という側面が重要視されつつある